

【基本理念】

Over Drive

～猛烈な好奇心をもって 飽くなき越境者となろう～



猛烈な好奇心をもって
飽くなき越境者となろう

【基本方針】

1. 猛烈な好奇心に満ち溢れたひとづくり
2. 個性と個性が融合したまちづくり

はじめに

1950年9月、戦争を経て、行き先を見失った日本を目の当たりにした私達の先輩諸兄は、若い力を結集させ広島青年会議所の前身である広島青年商工協議会を設立し、修練・奉仕・友情の三信条のもと、変革の能動者たる青年の団体として、広島の復興発展のために取り組んできました。40歳までという限られた時間の中で毎年、試行錯誤を繰り返しながら「組織」と「組織」、「ひと」と「ひと」、「まち」と「まち」をつなげ、ネガティブな環境からの脱却と新しい境地への挑戦が様々なカタチを成し、今年69年目を迎えます。

今日に至る過程において、時代の要求や私たちを取り巻く様々な環境の変化にあわせ時代にそぐわなくなってしまう点も少なくないでしょう。しかしながら、どれだけステージが広がり時代が変わっても土台としての「JCの本質」は褪せさせてはいけません。

JAYCEEとは、明るい豊かな社会の実現のために努力を惜しまず、どこかで誰かの役に立つことを信じて、地域社会に、時代に最良の変化を起こし続ける人だと信じています。そして今、その志と責任を受け継いでいるのは紛れもなく私たちです。先人達から受け継いだ"今"、未来の子供達から預かっている"今"、永遠と続く時代の中にある"今"という一瞬を駆け抜けるのは我々であることを自覚し、挑戦のために与えられた一年間という僅

かな時間、全てに真摯に向き合い、大胆に行動し次の世代へと一分一秒を紡いでいきましょう。

私たち広島青年会議所は創始のときよりこれまで、一体どれほどの方々から支えられて、今ここに在るのでしょうか。

チャーターメンバーや歴代理事長をはじめとするメンバーとそこご家族や会社の社員のみなさま、各地青年会議所のメンバー、多くの事業を開催する中で関わってくださった行政、諸団体、そして市民のみなさま。記録や記念誌に残っている方々以外にも本当に多くの支えがあったからこそ歴史が作られ、今の広島青年会議所が在ることを私たちは決して忘れてはいけません。また、今の私たち自身を支えてくれている家族や関係者によって青年会議所の活動を続けていられることに報いるため、私たちは活動と運動の両輪をもって、より良い広島の未来を描き、感謝をカタチとして表すことが思いを託された私たちの責任です。

個性と個性を融合し新たなステージを創造する

めまぐるしく変化する社会情勢の中、従来良しとされてきた「分析」「論理」「理性」に軸足を置いた意思決定では時代のニーズに対応することが難しくなっています。時間がかかりすぎるというデメリットに加え、多くの人が身につけている論理的・理性的な情報処理スキルにより導き出される答えは、奇しくも似通った結論を導き出す危険性があるからです。また、いたずらに論理的で理性的であろうとすれば、問題解決能力や想像力の麻痺をもたらすこともあります。

では、その対比軸にあるものは何でしょうか。

論理的に物事を積み上げて考え結論に至る「論理的な思考」と対比して、最初から論理を越えて結論に至る「直感的な思考」が存在し、正しさや合理性を軸に結論に至る「理性的な思考」と対比して、美しさや楽しさを軸とした「感性的な思考」が存在します。

直感と感性とは、物事に勢いをもたらす上で必要不可欠です。そして、間違いなく広島の戦後復興になくってはならない思考だったと思います。

そして、めまぐるしく変化する今の時代にこそ、「論理と直感」、「理性と感性」という対比する二つの考え方を大胆に融合し、化学反応を引き起こすことで生み出されるスピードとパワーが求められているのではないのでしょうか。

私たち広島青年会議所は常にその時代に求められるものは何かを探求し、領域を越えた新たなステージにおける広島のあるべき姿を追い求めなければいけません。

その重要な要素は「融合」と考えています。これは、既にある素晴らしい個性同士を組み合わせにより、全く異なった個性として、現代社会に適した形態にして展開する

ことです。変革の能動者たる私たちだからこそ、猛烈な好奇心をもって様々な個性を見つけ出し、「組織」、「ひと」、「まち」の三分野でいかに美しく融合させていくかを模索し、勇気をもってその一歩を踏み出だしたとき社会にポジティブな変化を起こすことが出来ると信じています。

組織

広島青年会議所には69年間紡いできた「伝統」があります。組織の根幹をなす厳格なルールへの理解と遵守、先駆的かつ政治・宗教など既存のものにとられない自由な発想、そして多岐にわたる様々なネットワークを持っていることは私たちの長所ともいえ、「ひろしまキッズシティ」など多くの団体の支援によって運営される事業はその成果の一つではないでしょうか。さらなる組織の進化へと歩みを進めるためには、これらを束ねる規律を今一度見直すとともに、今の時代に見合った円滑な組織運営を行う必要があります。私たちはJC運動を通じて社会と関わっていくことを前提とすると、社会の範となる組織運営に努めなければならず、明確で堅固な仕組みとルールを持つことは地域からの信頼を得ることが出来るはずで。これからも行政や地域の諸団体を含め、今まで築き上げてきた志を同じくする方々と融合し、さらに長所を伸ばし合える関係を構築することは、地域と連帯感のある力強い組織へと加速していくでしょう。

スマートフォンの普及やソーシャルメディアサービスの利用者拡大等により、私たちには利用可能な情報ツールやカテゴリの選択肢は無限に用意されています。このような環境下にあって、受け手側にどう受け取って欲しいのかをしっかりと考察し、特色ある斬新な情報発信のあり方を模索することは、私たちの存在価値を高めブランディングの確立へと導いてくれるはずで。

一つでも多くの出会いや学びから新しい何かの創造は始まります。その何かの見つけ方は人それぞれですが、より多く歩き、より多く出向く人は発見を得意とする人だと思います。また、その経験は価値の本質を見抜くために必要な主観的でありまた客観的でもある複次元な視点も養われるはずで。JCには、私たちのように地域に根ざした運動をしているLOMからの出向者で形成される公益社団法人日本青年会議所があり、その地域組織として地区協議会やブロック協議会が存在します。こうした組織への積極的な参加は、新たな仲間を作るきっかけとなると同時に最高の成長の機会とも言えます。諸会議及び各種大会への参加を含め、組織を越えた融合を大胆に図りましょう。

ひと

青年会議所の資源をヒト・モノ・カネに当てはめて考えたとき、モノが時間であるとするれば長短は不変であり、カネを貨幣とすれば自然と増えることはありません。しかし、ヒトは多くの可能性を秘めており成長する度合いは計り知れません。メンバーそれぞれには個性があり、互いに良き部分を尊重し高めあう関係性ができれば大事を成し遂げることが出来るはずで。そのためには広島JCメンバー全員がそれぞれの役割に徹しつつ、多く

の時間を共有し、互いを知り、その奥底で融合したとき、大きなチカラを秘めた組織へと昇華できると確信しています。

さて、私たちの個性はどのように育まれてきているのでしょうか。元々、日本人の感性は自然との一体感によって連綿と受け継がれてきました。「山川草木に神が宿る」というように、自然に対するアニミズムをもつ日本人は、そういう四季や自然に大きく影響を受けた細やかな感性によって育まれてきているのです。ひとは自然の摂理の中にいます。自然とひととの融合の中に感性や直感力が溢れた日本人たる誇りを養うヒントが導き出せるはずです。

まちづくりにおいて、才能あるひとが集まり磨き合うことはまちの発展に大きく関わってきます。「人は人によって磨かれる」という言葉が示すように、成長する上で個と個の融合は必要不可欠な要素と言って過言ではありません。2020年には東京オリンピック・パラリンピックを控え、日本は世界から注目され世界中の才能が集まりやすい環境にあります。特に国際平和文化都市を都市像に掲げる広島は、すでに幅広い分野で才能が躍動しています。ここ広島で国境を越えて才能が融合し生み出される相乗効果は、平和を基軸とした国際的な都市像の進化の起爆剤となるはずです。

まち

広島は、「日本国の縮図」とも呼ばれるほど優れた都市機能と豊かな自然が融合している環境にあります。首都圏をはじめとした大都市圏並みの利便性を有する一方で、車で一時間も走れば、美しい瀬戸内海にも到達でき、登山や清流を楽しめる山や川へのアクセスも良く、自然が生み出す良質な恵みは様々な文化を育み続けています。「自然豊かな地方都市で仕事をしながら生活する」という、今の時代に求める暮らしの条件に合致しているように思います。

また、第二次世界大戦において世界で初めて核兵器による爆撃を受け、遺産として残る「原爆ドーム」と日本三景の一つである「安芸の宮島」という二つのユネスコ世界遺産を有しており、国際的に知名度も高く、事実2017年度の広島県への観光客は2016年に比べて3.1%増の6989万人で、うち外国人旅行者は20.7%増の243万人となり共に6年連続で増え続けています。

広島独自の魅力をさらに進化させる上で、欠かせない要素の一つは私たち自身のアイデンティティを確立させることです。そのために、まちの魅力を形成するヒトやモノに必ずあるルーツを探ることは有効な手段です。なぜならば歴史を振り返り、物事の源流や、その流れから創り出された形状を知ると、これからの新しい流れを創り出す最良の組み立てが可能になるからです。広島も長い歴史の中で、新たな境地へと歩む精神性が育まれてきました。本年は、浅野氏広島城入城400年の記念すべき年です。戦前の歴史を見つめ直し、時空を越え過去・現在・未来が融合した新たな文化を創造していきましょう。

世界との経済的・時間的距離が縮まる中、高齢化が進み労働人口減少が深刻化している日本にとって国際的な視点は不可欠であり、地域の未来を担う青年世代はこれまで以上に

国際的視野を培っていくことが必要です。特に、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越え、つながるグローバル社会において、私たちと外国人市民、そして外国人旅行者が、国籍、言語、文化の多様性を認めなければなりません。そして、異なる文化をもつ人々が互いの文化の違いや価値観を融合し、心穏やかに過ごすことのできる心地よい環境と笑顔あふれるまちを実現することは、広島がなすべき恒久的な世界平和の一つではないでしょうか。

未来を見据えて

私たちは2015年度に「HIROSHIMA JC VISION 2020」を策定し、この先の広島青年会議所のあるべき姿や目指すべきまちづくり・ひとづくりの未来像をしっかりと見つめ運動を進めてきました。時間の経過とともに私たちを取り巻く環境は変化し、広島青年会議所も3年が経過すると半数近いメンバーが入れ替わります。2020年に集大成を迎える直前に、これまで行ってきた運動の成果を検証し、改めて原点に立ち返り全員でビジョンを共有しましょう。

青年会議所の極端ともいえる新陳代謝を生む仕組みは組織に活気を促すだけでなく、効果的なまちづくり・ひとづくり運動の展開につながります。明るい豊かなまちに必要な不可欠な志ある若者を多く育成することで、広島青年会議所が地域や人々にとって大切な存在としてあり続ける事ができます。会員一人ひとりが運動の素晴らしさとそれに対する情熱を伝え一人でも多くの仲間を増やすことは、広島青年会議所が新たなステージに歩みを進める加速的要素となるでしょう。

終わりに

自分はいつ「地球は丸い」ということを理解したのだろう。

「地球は丸いんだよ」と言われたときだろうか。地球儀を見せられたときなのか。

最近の調査で、実際の地球は丸くないということが証明されようとしています。決して、古代の人々がさまざまな想像力を働かせて描いたように、地球は平らで地平線の向こうにはなにもないという説のことを言っているのではなく、正確には地球は真球に近い形ではなく、いびつなジャガイモのような形をしているというのです。

今まで常識とされてきたことを根底から覆す調査結果ですが、この世の中には先入観や固定概念によって当たり前となって惰性のままに放置されている事例が数多く存在してはいないでしょうか。

本来そのような事例に対して率先して疑問を抱き、勇気をもってその本質を迫り、わくわくする感情を楽しみながら明るい豊かな社会の実現に向けてあらゆる障壁を越え、新たなステージを創造し続けることは私たち青年に課せられた最大の使命であると思います。

猛烈な好奇心に満ちた飽くなき越境者であり続けよう！！